

What?

Why?



所長 山本の

ワイズリレーインタビュー

第23回 株式会社中央コーポレーションの代表取締役社長 佐々木史昭さんに聞きました!

橋梁、水門、陸閘のトータルエンジニアリング。設計・製作・据付・保守まで自社でカバーするプロ集団。

Q まずは、業務内容を教えてください。

佐々木 橋梁、水門、陸閘（りっこう）、鋼構造物などの設計、製作、現地据付、メンテナンス、補修・補強等を行う鉄構事業のほか、建築事業も行っています。東日本大震災後は各発注機関の手足となり応急復旧や復旧調査などに協力、現在は震災前であれば大手企業が独占していた難易度の高い、大規模な復興工事を数多く手がけています。

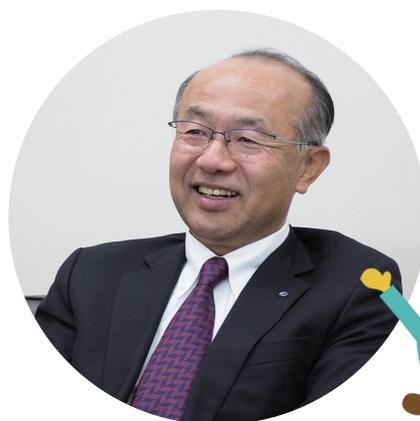
Q 会社の歴史は長いですか？

佐々木 建設業は江戸時代末期から約150年、鉄構業は昭和10年代半ばから約75年になります。創業者高橋吉助の祖父は花巻城の棟梁でした。その息子高橋常吉は東北随一の宮大工と言われた名工2代目高橋勘次郎の愛弟子で腕の立つ大工でしたが、「高常組製作所」を立ち上げ、木製水車や電動精米機を作る水車大工として農民の力となりました。常吉が他界した後、長男、四男、五男の三兄弟で昭和15年に「有限会社花巻鉄工所」を設立し、木材ではなく鉄鋼材料により農業機械を製造する道を拓き、事業を拡大していきました。戦後は大陸から引揚者を数多く採用しましたが、昭和24年に労働争議に巻き込まれ閉鎖を余儀なくされました。その後、技術責任者であった四男の高橋吉助が昭和26年に「中央製作所」を個人で創業し、初代社長となっています。2代目社長が私の父の佐々木郁夫、3代目社長が私です。

Q 他社と違うセールスポイントを教えてください。

佐々木 たくさんありますが、一つは、橋梁も水門も陸閘もその他の鋼構造物も、設計、製作、架設据付、メンテナンスまで全て自社でできることです。東日本大震災復興工事は大型の津波対策という意味で日本の最先端をいっており、当社は岩手県の発注する多くの工事を元請受注し、順調に施工を進めています。この経験とノウハウは今後の津波をはじめとする防災インフラの整備に県内外において広く生きてくるものです。もう一つは技術基準が非常に厳しい JR 東日本向けの鋼構造物を直接受注していることです。鉄道荷重が載荷される重要構造物の溶接認定をもつ工場は全国でも限られていて、当社はJR東日本全域、特に首都圏に多い100年近く経過した鉄道橋の掛け替え用の鉄道橋をほぼ通年製作しています。また開かずの踏切対策

「以前は大規模工事が決まると、少ない技術者で会社をあげて対応していましたが、今はレベルの高い社員に恵まれ、数多くの工事を平行して進められ、計画から参画するケースも増えて来ました」と振り返る佐々木さん。



工事で使用される JES エLEMENTと言われる地下構造物をJR東日本のみならず、JR東海、JR西日本に向けて供給しています。

Q 社名の由来は？

佐々木 祖父の高橋吉助が昭和26年に創業したときに中央製作所と称したのですが、ローカルではなく日本の「中央」でありたいという思いが強かったと聞きました。昭和40年に株式会社中央製作所となり、平成15年に合併して中央コーポレーションとなりましたが、「中央」という言葉にこだわりを持っています。

Q この仕事の魅力はどこに感じていますか？

佐々木 地図に残ることですね。毎月、安全パトロールで現場に行きますが、我々が造ったものがそこで重要な役割を果たしていて「純粹にすごいな」と思います。

Q 永久に仕事はなくなることはないですか？

佐々木 復興事業はあと数年で終わりますが、社会インフラを健全に保つという役割に終わりはありません。昨年、地震、台風、大雨、大雪など、自然災害の激しさが増えている、対策は災害が起こってから行うより予防として行った方が社会コストも安く済みます。今後橋梁は、既設橋の長寿命化が鍵になってきます。現場を調査して、適確な診断を下し、適切な時期に適切な処置を施せば、橋梁を長持ちさせることができます。当社は長年に

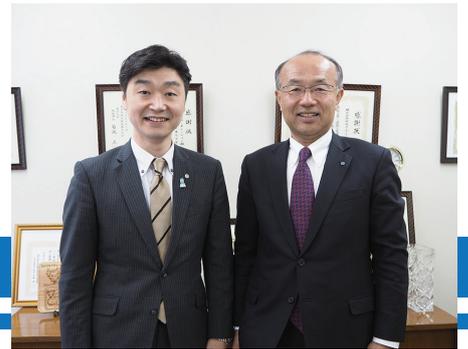


株式会社中央コーポレーション
代表取締役社長

佐々木 史昭 (ささき・ふみあき)

昭和38年花巻市生まれ。東北大学工学部を経て昭和61年住友金属工業(現新日鉄住金)入社。建設エンジニアリング事業本部橋梁技術室、鹿島橋梁工場で勤務し、平成6年(株)中央製作所入社。平成14年3代目代表取締役に就任。岩手県鉄構工業協同組合理事長、花巻商工会議所副会頭、(公財)花巻国際交流協会理事も務める。

感謝状や表彰状、経済産業省の「地域未来牽引企業」の選定証などが並ぶ前で。



株式会社みちのくクボタ 代表取締役 高橋 豊 さんからのご紹介

わたり鋼製橋梁のあらゆることを手がけてきており、総合的に判断して最適な処置を施すことができます。

Q 大変だったなということとは？

佐々木 平成10年代前半は、全国的に公共事業の大幅削減が続き、38歳で社長交代した後、2年間は大赤字が続いて大変でした。何人もの社員が辞めていき、会社の雰囲気も悪くなり、どん底を経験しました。社長に就任した最初の2年間で本当に辛い思いをした経験が私の経営の原点です。

Q どのように乗り越えてきましたか？

佐々木 社長が考える理想論も社員の立場にたつとそれなりの理由があってできないわけで、組織としてはそれが実力なのだと思います。覚悟を決めて会社に残ってもらった人達で気持ちを一つに知恵を出し合い、身の丈に合ったことからひとつずつ地道に取り組み始めました。その後を振り返ってみると、東日本大震災を例外として増収を続けています。具体的には業績を「見える化」し、社員と共有しています。

Q どのように「見える化」しているのですか？

佐々木 プロジェクト毎の実行予算を各部署でしっかり管理してもらい、毎月各部門の工事進捗に応じた想定粗利益を計上、部署毎の管理費をカバーしているか損益を全社で共有しています。各部署のパフォーマンスを高めるために、部署の行動計画を毎月マネジメントプログラムとして見える化し、PDCA の状況を部署毎に毎月社長に直接報告してもらっています。

Q 自分なりの勉強や情報収集の方法はありますか？

佐々木 花巻国際交流協会の理事長や、ロータリークラブでも高校生の青少年交換プログラムに関わって海外派遣やホームステイのお世話をしており、国際情勢にとっても興味があります。英語で外国人とコミュニケーションする機会も多く、10年以上英会話教室に通い、海外の様々な価値観に触れて気付きを頂いています。

Q 会社としての目標を教えてください。

佐々木 少しずつでよいので、昨年より今年、今年より来年、

社員が夢を持って仕事ができ、よろこんで貰えるような経営を続けたいですね。岩手県鉄構組合理事長や花巻商工会議所副会頭になり、地域に貢献している企業として、多くの利益を上げるより、地元出身の社員が日々夢を持って明るく楽しく働き、社業に誇りを持てるような経営を続けたいと思います。

Q 個人としての目標を教えてください。

佐々木 心身ともに健康で、末永く良い経営を続けることです。国際交流など社会貢献に楽しんで関わり、繋がりあるすべての方と幸せを共有したいです。

Q 仕事をする上で、どんなことを大切にしていますか？

佐々木 自分本位になりすぎず、相手の立場になって考えるようにしています。仮に、相手の考え方に納得できず、自分の方が正しいと思っても、相手が気付かなければ押し付けず、話し合い、本当に分かってもらえるまで待ちます。それが組織として永く成長できる方法と思っています。

Q 最後に好きなタイプの芸能人を教えてください！

佐々木 スポーツが好きなので福原愛ちゃん。きれいで明るく優しくてさっぱりしているからです。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございました。

平成27年に作成した同社の「創立50周年記念誌」。



株式会社中央コーポレーション

本社 花巻市東宮野目 11-5

☎ 0198-26-3033 <http://www.e-chuoh.com>